

どん底を味わった、あなたへ...

【ドラッグ】

【依存症】



【レイプ】

【HIV/AIDS】



【孤立】

【虐待】



【前科】

【貧困】

TALK BACK

トークバック

沈黙を破る**女**たち

監督：坂上 香

FLIFERS 坂上香



【偏見・差別】

【DV】



沈黙を強いられた女たちが、語り、踊り、演じる。

「アタシたちをなめんじゃない！」

どん底の過去…見えない未来…

芝居と女の友情で声を取り戻していく“ワケあり”女たち。

『オサラバ、昨日までのアタシよ!』

「Lifers ライファース 終身刑を超えて」(2004)の坂上香監督による、待望のカムバック作品。米国・サンフランシスコを舞台に、HIV陽性者、元受刑者、薬物依存症者、暴力のサバイバーなど、社会の周縁を生きる女性たちが、芝居づくりをとおして、自らの人生を取り戻していくドキュメンタリー。8年の月日を経て、ようやく幕が上がる。

Story

「TALK BACK トークバック 沈黙を破る女たち」は、2010年に初演を迎えた芝居「愛の道化師と踊る (Dancing with the Clown of Love)」を軸に展開する、8人の女たちのリアルな群像劇!

主人公は、女だけのアマチュア劇団「メデア・プロジェクト: 囚われた女たちの劇場」に所属する女たち。メデアは1989年に刑務所で生まれた、女性受刑者のための劇団だ。20年に及ぶ期間での活動を経て、堀の外で新しい活動に挑戦し始めた。映画では、元受刑者とプロの演劇人が、HIV陽性者とタグを組み、一つの作品を作る過程を追う。

「HIV/AIDSは偏見の病だ。」HIV専門医のDr. マッティングガーは言う。治療薬の開発も進み、もはや「AIDS=死」ではない。予防も可能だ。にも関わらず、社会の誤解と差別はなくなる。それによって生まれる患者の健康への弊害。そこで彼が目につけたのが、メデアだった。

メデアの創始者・代表のローテッサ・ジョーンズは言う。

「社会は罪を犯した女性を忌み嫌う。マスコミにとってはセンセーショナルで恰好のネタだけど、社会的規範を破ったことで、彼女たちを『悪女』として扱い、罰したがる。HIV陽性者への対応にも共通するところがあると思ったのよ。」

恋人から感染したNPO職員、留学先でレイプされ感染した大学生、薬物の回し打ちや売春から感染した女性たち…病の事実をひた隠しに隠してきた彼女たちが、長い沈黙を経て、語り、踊り、演じる。「私が何に傷ついてきたか、深いところまで掘り下げて考えさせてくれたのがメデア」と語るのは日系で最年少のソニア。「抗うつ葉より、セラビーより、演劇のほうが効果がありそうだったの」と言うのはオーストリア出身のマルレナ。黒人で元売春婦のカサンドラは、メデアの活動を通して親子関係を修復中だ。クラック依存が原因で発音障害になったデボラは、メデアを通して表現力を高め、仲間との関係を育てていく。

元受刑者のアンジーは言う。

「どんなにサイテーな人生だったとしても、恥じることなく生きて。顔をあげて、語るのよ!」

監督・製作・編集 | 坂上香 共同プロデューサー | 麻生歩

撮影 | 南幸男 録音 | 森英司 音楽 | 伊藤彰教 制作協力 | トークバック応援団

2013年/カラー/120分/日本/英語 Talk Back Out Loud

製作・配給 | 特定非営利活動法人 out of frame ©out of frame 宣伝美術 | 高木善彦 (SLOW-LIGHT)

■トークバック応援団

◎製作チーム

代表 | 仲村久代 (国定NPO法人サバイバルネット・ライフ代表) 副代表 | 兵藤智佳 (早稲田大学助教) 事務局長 | 入海英里子 (NPO法人 out of frame 理事)

メンバー | 山下直美子 (NPO法人 out of frame 副代表理事) 仲村天平 (国定NPO法人サバイバルネット・ライフ事務局長)

橋本美穂 (NPO法人 out of frame 理事) 藤田紀久子 (食社役員) 麻生歩 (フリーTVプロデューサー) 橋尾佐智子

◎サポーター (敬称略、あいうえお順)

池田忠理子 (アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」館長) 生島朋 (なれいず東京代表) 市垣恵子 (南山医科大学 非常勤講師)

上田真樹代 (個人/NPO ココロム代表) 上野千鶴子 (東京大学名誉教授/NPO法人WAN理事長) 打越さく良 (岸和田) 大塚栄子 (NPO法人リカバリー代表)

大塚敦子 (フォトジャーナリスト) 岡野八代 (同志社大学教員) 斎合由利子 (専攻科) 上岡福江 (NPO法人タラク女性ハウス代表) 北原理 (大阪大学教員)

倉田めば (NPO法人大塚タラク・アンチエイジング副理事長) 鈴木英果 (東京府) 鈴木健博 (キヤネットみやぎ事務局長) 千葉美香 (児童虐待防止)

信田さよ子 (原簿カウンセリングセンター所長) 別府三奈子 (日本大学教員) 三塚恵子 (札幌市子どもの権利委員会事務局長) 向谷地生貴 (北海道医療大学/清河へての会)

山下英三郎 (日本社会事業大学名誉教授) 百野さつき (アーツマネージャー/愛知大学准教授) Susan Mason (カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校名誉教授)

大反響!
Web連載
エッセイ

women's action networkにて
坂上香監督「トークバック」製作ノート、
連載中!! → <http://wan.or.jp/> (Cinema欄)



東北 HIV コミュニケーションズ 20 周年記念 支えあう上映会とフォーラム 2013. 12. 21 (土)

◆会場: せんだいメディアテーク 7 階シアター ◆特別上映入場料 1 回 1,000 円 ★開場 13:30 ★上映会① 13:40~15:40
★支えあうフォーラム ~ 坂上香監督と語る 16:00~17:30 (入場無料) ★上映会② 18:20~20:20
主催: 東北 HIV コミュニケーションズ (THC) 助成: ザ・ボディショップ・ニッポン基金
○ 問い合わせ: 080-5224-7413(小浜) thc00sasaeau-study@yahoo.co.jp ○ Blog: <http://blog.canpan.info/thc/>